

農作物技術情報 第7号 水稻

発行日 令和5年 9月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 県内全域で刈取り作業が進んでいます。刈遅れは着色粒・胴割粒、白未熟粒の混入率を高めるので、速やかに刈取りを終えましょう。
- ◆ 倒伏した圃場では、コンバイン等の作業速度を遅くし、刈分けにより品質確保に努めましょう。
- ◆ 胴割粒の発生防止のために、丁寧な乾燥を心掛けましょう。
- ◆ 日没が早まる時期なので、無理をせず安全第一の農作業を心掛けましょう。

1 県内の刈取り進捗状況

- (1) 刈取り始期（10%）は、平年より6日早い9月18日頃と推定されます。
- (2) 9月20日現在、県全体の水田の22%で刈取りが終了しており、地帯別では、北上川上流23%、北上川下流21%、東部26%、北部19%となっています。

表1 県内水稻の刈取り状況（9月20日現在、各農業改良普及センター調べ）

	進捗率(%)	本年（月/日）			平年（月/日）			平年差（日）			
		本年	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	23		(9/18)			9/24	10/5	10/16	(-6)		
北上川下流	21		(9/18)			9/24	10/3	10/13	(-6)		
東 部	26		9/18			9/23	10/1	10/13	-5		
北 部	19		(9/19)			9/27	10/6	10/17	(-8)		
県 全 体	22		(9/18)			9/24	10/4	10/14	(-6)		

- 1) 県全体…地帯別の水稻作付面積比による加重平均。
- 2) 刈取り時期…始期：10%、盛期：50%、終期：90% の水田で終了した日。始期（括弧書き）は、9/20現在で未到達の市町村を含むため暫定値。
- 3) 平 年…平成25年～令和4年の10ヵ年の平均値。

2 品質確保に向けた収穫対策

- (1) 現在ほとんどの圃場で成熟期を迎えています。刈遅れは着色粒・胴割粒、白未熟粒の混入率を高めるので、刈取りがまだの方は速やかに刈取りを行います。
- (2) 倒伏した圃場では、コンバイン等の作業速度を遅くし、丁寧に刈取ります。また、水口付近など、周りと比べて生育等が著しく異なる部分は刈分けし、玄米品質の均質化に努めます。
- (3) 例年10月は台風の発生が多い時期となりますので、台風接近前は農作業安全に留意しつつ、可能な限り刈取りを終えるとともに、通過後は速やかに作業開始できるよう、排水対策を徹底します。なお、技術対策の詳細については9月7日発行の「号外 台風対策」を参照してください。



図1 胴割粒（矢印）

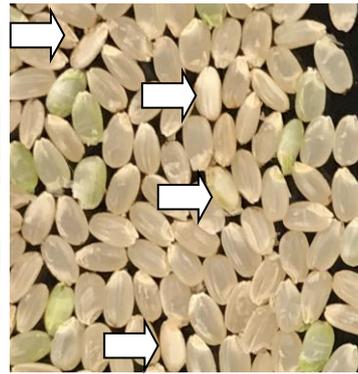


図2 乳白粒（矢印）

3 乾燥・調製の留意点

(1) 胴割粒の発生防止

- ・ 火力乾燥においては、1時間あたりの水分減少率（毎時乾減率）を0.8%以下とします。
⇒ 乾燥速度を上げすぎると胴割粒が発生するため、急激な乾燥・過乾燥に注意します。
- ・ 4%以上の水分差がある粳を一緒に張り込むことは避けます。
⇒ 粳水分18%の時に一旦乾燥機を止めて放冷・循環常温通風し、その後仕上げ乾燥して粳水分の均質化を図ります（二段乾燥）。
- ・ 自然乾燥（ハセ・棒がけ）は2週間以内を目安とし、時々掛け替えして乾燥を促します。

(2) 粳すり時の肌ずれ、脱ぶの防止

- ・ 肌ずれを防止するため、玄米水分15.0%以下の適正水分で粳すりを行います。
- ・ ゴムロールのすき間は、粳の厚さの約1/2（0.5～1.2mm）が標準です。
- ・ 脱ぶ率は条件により変化するので、85%程度になるようロール間隔を調整します。

(3) ライスグレーダー

出荷製品用は、LL（1.9mm）の篩い目使用を基本とし、整粒歩合80%以上に仕上げます。

4 農作業安全

日没が早まる時期です。夕方に事故の発生が多いので、計画的かつ慎重な作業を心がけます。

- ・ 圃場での移動、運搬の際の転倒事故や追突事故に注意
- ・ コンバインにワラ等が詰まった際は、必ずエンジンを止めてから作業を行う
- ・ 反射材や低速車マークを取り付け、路上走行中の追突事故を防止

次号は10月26日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

**9月15日～11月15日は
秋の農作業安全月間です**

農作業 慣れと油断が 事故のもと

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。